

令和4年度 第1回 金沢シビックテック推進協議会

日時：令和4年6月29日(水) 18:30~20:00

場所：金沢市役所第一本庁舎 7階 第1委員会室

次 第

1 開 会

2 審議事項

議案第1号 令和3年度事業報告について

議案第2号 令和3年度決算（案）について

議案第3号 令和4年度事業計画（案）について

議案第4号 令和4年度予算（案）について

3 その他

4 閉 会

金沢シビックテック推進協議会 委員名簿

(50音順、敬称略)

区分	氏名	役職	備考
委員	小俣 博司	オープン川崎 代表	
委員	中田 明秀	金沢市 PTA 協議会 副会長	
委員	濱田 尚則	一般社団法人石川県情報システム工業会 副会長	
委員	福島 健一郎	一般社団法人コード・フォー・カナザワ 代表理事	
委員	松井 くにお	金沢工業大学工学部情報工学科 教授	
委員	眞鍋 知子	金沢大学 融合研究域 融合科学系 教授	
委員	矢後 智子	NPO 法人ネットワークアシストたかおか 副理事長	
委員	山口 いづみ	NPO 法人あかりプロジェクト 代表理事	
監事	松本 明	金沢市会計課長	

令和3年度事業報告

令和3年度の金沢シビックテック推進協議会事業の結果は、以下のとおりである。

(1) 地域課題解決マッチング事業

課題募集から、アイデア募集、作り手とのマッチングを実施し、5チームがマッチングした。

5チームのうち、企画書の提出があった3チームについて支援の可否を検討した結果、2チームについて支援を行うこととした。

(2) オープンデータ官民ラウンドテーブル

データ公開要望募集に応募があった3件について、オープンデータ官民ラウンドテーブルを開催した。

その結果、3件全てについて、公開に向けて取り組むこととなった。

うち1件について、令和3年度中にデータを公開した。

(3) シビックテック塾

9月から11月にかけて全3回開催し、21名が受講した。

(4) 情報発信事業

ポータルサイトを運用し、協議会事業の周知や募集など、積極的な情報発信を実施した。

1 地域課題解決マッチング事業

市民や行政等から具体的な課題を募集し、その課題について ICT を活用して解決するアイデアを募集する。そして解決アイデア提案者と、アイデアを実際に構築できる「作り手」をマッチングし、開発支援を行うことで、シビックテックの推進を図る。

(1) 地域課題募集

- ・募集期間：令和3年7月1日（木）～ 7月30日（金）
- ・募集内容：日頃感じている困りごとや、金沢市が抱える地域課題
- ・応募数：34件（地域課題 23件 行政課題 11件）
- ・選定数：27件

(2) 解決アイデア募集

- ・募集期間：令和3年8月16日（月）～ 9月10日（金）
- ・募集内容：応募があった地域課題を、ICT を活用して解決するアイデア
- ・応募数：11件
- ・選定数：5件

(3) 作り手（アプリ等開発者）募集

- ・募集期間：令和3年10月1日（金）～ 10月22日（金）

(4) 作り手（アプリ等開発者）とのマッチングイベント

日時：令和3年10月29日（金） 19:00～21:00

会場：金沢学生のまち市民交流館 交流ホール

- 内容：
- ・解決アイデア応募者による解決アイデアのプレゼンテーション
 - ・解決アイデア応募者と作り手（アプリ等開発者）とのマッチング

【マッチングした地域課題・解決アイデアと作り手】

解決アイデア : 5件

作り手 : 4名

マッチングした件数 : 5件

No.	地域課題（お困りごと）	解決アイデア	作り手
1	フードドライブの入出庫管理を簡略化したい！	フードドライブ入出庫管理アプリ	三浦 稔生 加藤 真透
2	古紙等回収拠点を簡単に検索したい！	古紙回収等拠点の地図マッピングアプリ	松田 夕貴
3	古紙等回収拠点を簡単に検索したい！	古紙回収等拠点のLINE ボット	松田 夕貴
4	聴覚障害者の聞き取りをサポートしてほしい！	聞き取りサポートアプリ	加藤 真透 松田 夕貴
5	金沢農業大学校修了生が生産する農産物の販路を確保したい！	新規就農者農産物マッチングアプリ	米澤 利昭

【マッチングイベントの様子】



(5) 各開発チームに対する支援の可否の検討

日時：令和4年2月4日（金）16：00～18：00

会場：金沢学生のまち市民交流館 交流ホール

内容：マッチングした5チームのうち、企画書の提出があった3チームについて支援の可否を検討した。

結果：以下の2チームについて支援を行うこととした。

地域課題1「フードドライブの入在庫管理を簡略化したい！」

【開発アプリ】

フードドライブ出庫管理アプリ

【アプリの概要】

フードドライブに係る食品の入在庫管理に手間がかかっていることから、まず入庫管理方法を見直し効率化を図った上で、フードバンクの入在庫及びフードドライブの出庫管理を行うアプリを開発する。

地域課題2「古紙等回収拠点を簡単に検索したい！」

【開発アプリ】

古紙等回収拠点の地図マッピングアプリ

【アプリの概要】

自宅近くのどこで古紙等回収を行っているかわかりにくいことから、古紙等回収拠点を地図上でマッピングし、場所を選択すると、回収品目や回収時間帯などが確認できるアプリを開発する。

(6) 開発アプリの公開

古紙等回収拠点の地図マッピングアプリについて、公開にあわせて市長への完成報告を行った。

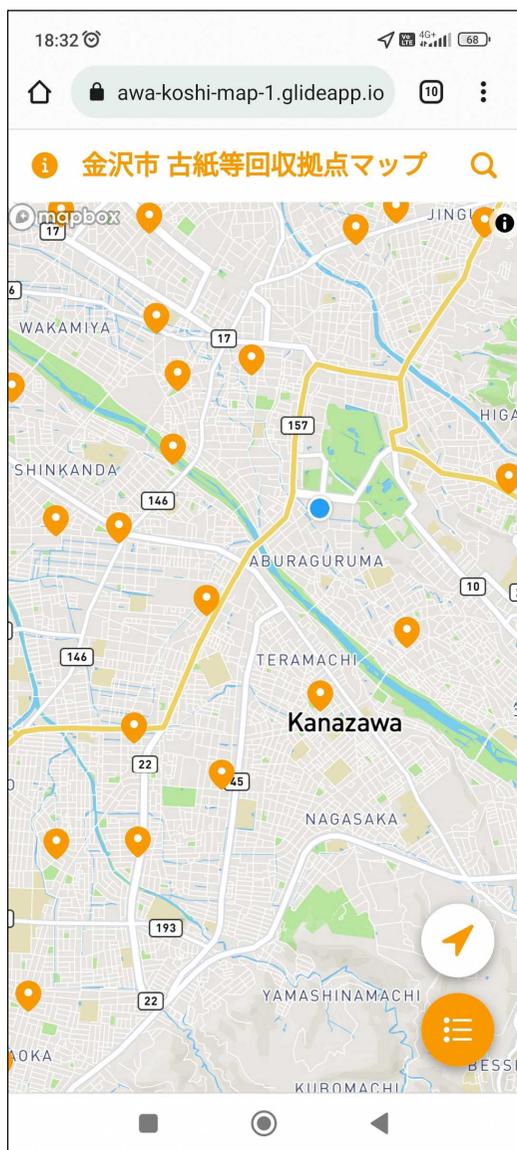
日時：令和4年4月27日（水）15：30～15：45

会場：金沢市役所第一本庁舎 4階 市長応接室

開発チーム：（リーダー）松田 夕貴 氏 （メンバー）加藤 真透 氏、高森 正也 氏（※高森氏は当日欠席）



令和4年4月28日（木）
北國新聞朝刊



回収拠点を地図上で検索可能



各拠点の回収品目や日時を詳しく表示



リスト表示も可能

2 オープンデータ官民ラウンドテーブル

オープンデータとしてニーズの高い分野やデータについて、行政職員及び民間企業や市民等の間でデータの公開要望や公開可否について議論することで、オープンデータの公開を推進する。

(1) データ公開要望の募集

募集期間：令和3年11月2日（火）～令和3年11月30日（火）

募集内容：「環境・インフラ・防災」分野で、金沢市が保有するデータの公開要望

応募件数：3件

- ・回収されずに、ごみステーションに残されたごみに関する情報
- ・水位観測データ、雨量観測データ
- ・「金沢市まちづくり支援情報システム」掲載 GIS データ

(2) ラウンドテーブルの開催

日時：令和3年12月22日（水）19：00～20：30

場所：金沢市役所第二本庁舎 3階 2301 会議室

【オープンデータ官民ラウンドテーブルの様子】



【オープンデータ官民ラウンドテーブルの結果】

公開要望	担当課	結果
回収されずに、ごみステーションに残されたごみに関する情報	ごみ減量推進課	○
水位観測データ、雨量観測データ	内水整備課	○
「金沢市まちづくり支援情報システム」掲載 GIS データ	都市計画課	○

○：公開 △：今後の課題・検討事項 ×：公開不可

(3) オープンデータの公開

- ・回収されずに、ごみステーションに残されたごみに関する情報（令和4年3月14日公開）

3 シビックテック塾

アプリケーション開発や地域課題解決に興味を持つ学生・社会人等を対象に、シビックテックの専門家のアドバイスを得ながら、地域の課題解決につながるアプリケーションの開発等の講義・演習等を行い、将来のシビックテックプレイヤー候補として育成する。

(1) 受講生募集

募集期間：令和3年8月3日（火）～ 8月31日（火）

募集対象：アプリケーションの開発に関心を持つ方

※高校生以上で、金沢市又は金沢市近郊に在住している方

応募人数：21名（受講人数21名）

(2) 講義内容

講義形式：Zoomによるオンライン開催（全3回）

講義日程及び内容

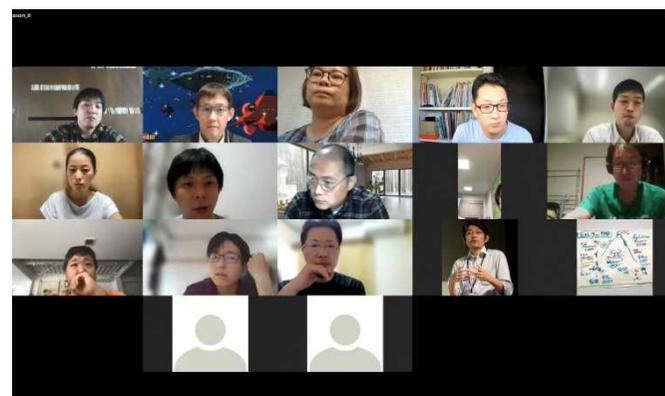
開催日	内容	時間
9月11日（土）	シビックテックとは（講義）	13:00～13:30
	ノーコードとは（講義）	13:30～14:30
	自己紹介	14:30～15:00
	ノーコードの練習問題	15:00～16:00
10月16日（土）	考えてきたアイデアの発表 プロダクトの作成（演習）	13:00～14:00 14:00～16:00
11月14日（日）	プロダクトの作成（演習）	13:00～16:00

※希望者には17:00までサポート

講師：一般社団法人コード・フォー・カナザワ

福島 健一郎 氏、雄谷 峰志 氏、佐々木 修吾 氏

【シビックテック塾の様子】

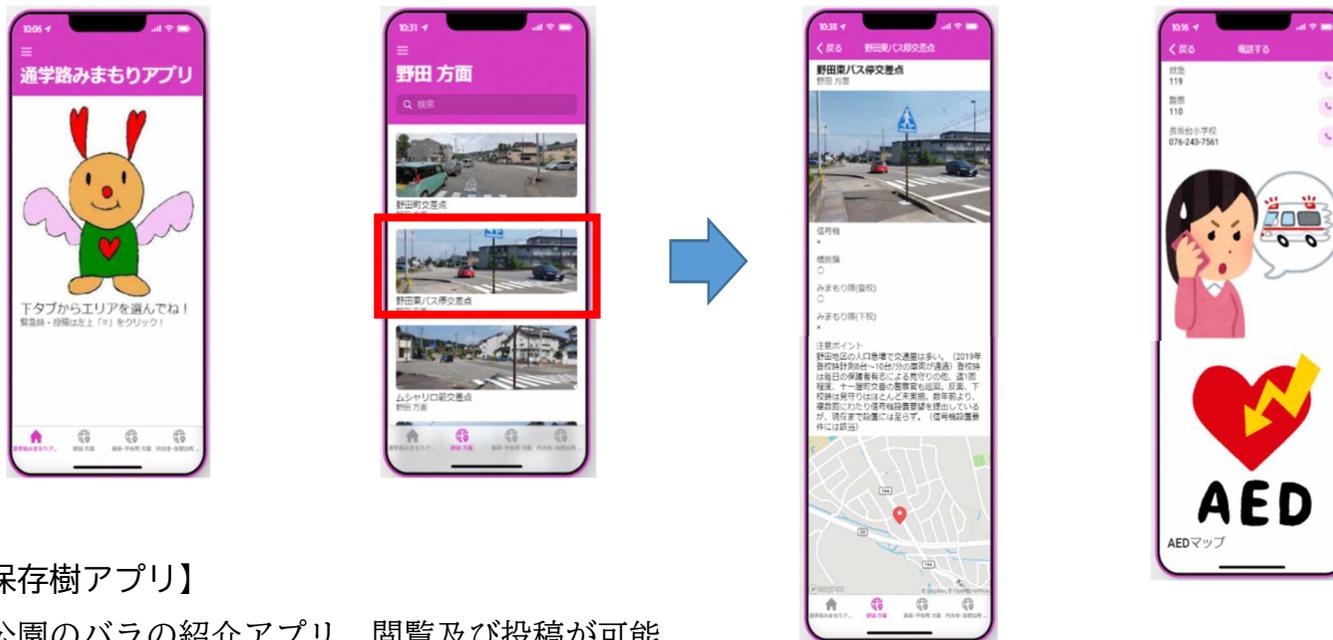


(3) 受講生開発アプリ(例)

【通学路みまもりアプリ】

通学路における危険箇所の情報を、写真や地図情報を交えて紹介するほか、信号機や横断手旗の有無・見守り隊の配置状況、注意ポイントを掲載。

また、倒れている児童に遭遇した場合に備え、救急・警察等への電話や心肺蘇生法・AED マップへのリンク機能を実装。



【バラ公園・金沢保存樹アプリ】

金沢南総合運動公園のバラの紹介アプリ。閲覧及び投稿が可能。
金沢市指定保存樹・景観樹の紹介アプリ。閲覧及び投稿が可能。

【お買い物アプリ】

買い物に不自由している方のため、重量がある商品を自宅まで届けるアプリ。

【ハンドメイドショップアプリ】

市内のハンドメイド作家の商品紹介アプリ



4 情報発信事業

令和2年度に立ち上げた「シビックテックポータルサイト」において、当協議会の事業やシビックテックの事例等の積極的なPRに努めるとともに、掲載情報の充実を図る。

(1) URL

<https://kanazawa-civic-tech.jp>

(2) サイト構成

①協議会事業の紹介

- ・金沢シビックテック推進協議会とは
- ・地域課題マッチング事業
- ・オープンデータ官民アラウンドテーブル
- ・シビックテック塾

②シビックテック人材バンク

- ・シビックテック分野で活躍するプレイヤーの紹介及び募集

③他地域事例集

- ・他の自治体等でのシビックテック活動事例や提供サービスの紹介

④シビックテック関連リンク集

- ・全国のCode for 団体及び関連団体の紹介
- ・オープンデータ関連サイトの紹介

⑤お知らせ

- ・協議会事業等についてのお知らせを随時掲載



5 協議会内の意見交換機会の充実

協議会委員が意見交換をしやすいよう、年2回の正規協議会以外にも、facebook グループによる意見交換の場を設ける。

(1) 公開日

令和3年6月1日(火)



令和3年度決算(案)

【収入】

(単位:円)

項	目	予算額(A)	決算額(B)	差引(B)-(A)	備考
1 受託事業収入	委託料	2,500,000	1,106,929	△ 1,393,071	金沢市委託料
2 その他収入	雑入		13	13	預金利子
合計		2,500,000	1,106,942	△ 1,393,058	

【支出】

(単位:円)

項	目	予算額(A)	決算額(B)	差引(B)-(A)	備考
1 事業費		2,150,000	933,442	△ 1,216,558	
	①地域課題解決マッチング事業	795,000	243,130	△ 551,870	開発支援金等
	②シビックテック塾開催事業	670,000	499,798	△ 170,202	塾開催委託費等
	③オープンデータ官民ラウンドテーブル開催事業	162,000	32,114	△ 129,886	有識者謝礼等
	④情報発信事業	523,000	158,400	△ 364,600	ポータルサイト運営費等
2 運営費		350,000	173,500	△ 176,500	委員謝礼等
合計		2,500,000	1,106,942	△ 1,393,058	

なお、【収入】受託事業収入の予算額と決算額の差額 1,393,071円については、金沢市に返納した。

会計監査報告

令和3年度金沢シビックテック推進協議会の会計決算書および関係書類を監査した結果、収入、支出いずれも適正であったことを報告します。

令和 4年 4月 18日

監事 松本 明

令和4年度事業計画（案）

令和4年度の協議会事業の執行予定は、以下のとおりである。

(1) 地域課題解決マッチング事業

市民等から具体的な地域課題（お困りごと）を募集・公開し、その課題について ICT を活用して解決する作り手を募集する。そして課題応募者と作り手をマッチングし、解決に向けた支援を行うことで、地域課題の解決を図る。

(2) シビックテック塾

アプリケーション開発や地域課題解決に興味を持つ学生・社会人等を対象に、シビックテックの専門家のアドバイスを得ながら、地域の課題解決につながるアプリケーションの開発等の講義・演習等を行い、将来のシビックテックプレイヤー候補として育成する。

(3) オープンデータ官民ラウンドテーブル

市民活動等に利用可能なデータの公開要望を募集し、市民等や有識者、市担当課の間で公開要望や公開可否について意見交換を行うほか、市民団体等向けのデータ活用講座を開催する。

(4) 情報発信等事業

シビックテックポータルサイトを運用し、当協議会の事業や募集について積極的に PR するとともに、当協議会 facebook グループを運用し、委員間の情報共有及び意見交換を実施する。

1 地域課題解決マッチング事業

市民等から具体的な地域課題（お困りごと）を募集・公開し、その課題について ICT を活用して解決する作り手を募集する。そして課題応募者と作り手をマッチングし、解決に向けた支援を行うことで、地域課題の解決を図る。

(1) 令和4年度の方向性

- ・「課題応募者」が課題解決に積極的に取り組む体制とする。
 - 「課題応募者」と「作り手」でチームを結成する。（解決アイデアは募集せず、チームで検討する。）
- ・「アプリ開発」に限らず、ICT を活用した課題解決を支援対象とする。
- ・「作り手」に対するメリットについて検討する。

(2) 事業の流れ

①地域課題募集

- ・市民や市民団体等に対して、テーマは定めず、具体的な地域課題（困りごと）を募集する。
- ・過去に当事業の課題として応募し、支援対象とならなかった課題についても再度応募可能とする。
- ・応募された地域課題については、原則公開し、作り手を募集する。
ただし、地域課題として不適当なものについては、委員に明示の上、作り手を募集しない。

②作り手募集

- ・応募された地域課題について、ICT を活用して解決する「作り手」を募集する。
- ・作り手は、アプリ開発のスキルを持った人材に限らず募集する。（企画やデザインなど様々な人材を求める。）
- ・作り手には、興味がある地域課題を選択し、応募していただく。

③マッチングイベント

- ・課題応募者や作り手などが、ICTを活用した解決アイデアについてディスカッションを行うイベントを開催する。
- ・作り手が選択したものなど、いくつか選定した地域課題について、その課題応募者がプレゼンを行う。
- ・作り手は各課題応募者のブースをまわり、ICTを活用した解決アイデアについてディスカッションを行う。
- ・課題の解決に向けて協働を行うことが可能な場合は、課題応募者と作り手で「解決チーム」を結成し、解決アイデアを検討する。

④開発支援

- ・開発支援を希望する場合は、チームで解決アイデアを企画書にまとめ、事務局へ提出する。
- ・提出された企画書は、委員により、課題の解決性や継続性などの観点から審査を行い、支援の可否を決定する。
- ・支援可となったチームに対しては、解決支援費として10万円/件を支給する。（最大5件）
- ・支援を受けたチームは、おおむね次年度上半期中に解決アイデアを具現化する。
- ・支援を受けたチームは、毎年度に活動報告書を提出し、希望に応じて委員等からアドバイスを受ける。（※おおむね2年間程度）

(3) スケジュール（予定）

7～8月 地域課題募集

9～10月 作り手募集

11月 マッチングイベント開催

2月 支援の可否の決定

2 シビックテック塾

アプリケーション開発や地域課題解決に興味を持つ学生・社会人等を対象に、シビックテックの専門家のアドバイスを得ながら、地域の課題解決につながるアプリケーションの開発等の講義・演習等を行い、将来のシビックテックプレイヤー候補として育成する。

(1) 令和4年度の方向性

- ・引き続き、ノーコードに関する講座とする。
- ・「自らが持つ課題の解決をサポートする」という視点を受講生募集時にPRする。

(2) 受講対象者

- ・シビックテック及び地域課題解決に興味がある高校生以上の方
(アプリ開発未経験者可。Zoomによるオンライン会議やExcel等、基本的なパソコンの操作ができること。)
- ・金沢市または金沢市近郊に在住の方

(3) 講座内容

- ・プログラムを書かずにアプリの開発が可能な「ノーコードツール」の講座とする。
- ・月1回、土曜または日曜日の開催とし、計3回の開催とする。

【参考：昨年度の内容】

- 1回目 シビックテックやノーコードツールに関する講義
 - 2回目 作成するアプリのアイデア発表、アプリ開発演習
 - 3回目 アプリ開発演習、発表
- ・定員 20名程度
 - ・受講料無料 (パソコンやインターネット回線等は受講生各自で用意)

(4) 運営

- ・一般社団法人コード・フォー・カナザワに委託予定

(5) スケジュール (予定)

- 7月 受講生の募集
- 8月 シビックテック塾の開催 (第1回目)
- 9月 シビックテック塾の開催 (第2回目)
- 10月 シビックテック塾の開催 (第3回目)

3 オープンデータ官民ラウンドテーブル

市民活動等に利用可能なデータの公開要望を募集し、市民等や有識者、市担当課の間で公開要望や公開可否について意見交換を行うほか、市民団体等向けのデータ活用講座を開催する。

(1) 令和4年度の方向性

- ・市民団体等からのデータ公開要望を増やすため、データ活用講座を開催する。
- ・「議論」という堅い形式ではなく「意見交換」の方向とする。

(2) データ活用講座

- ・市民団体等を主な対象とし、活動へのデータ活用事例等を紹介する。
- ・オンラインで、1回の開催とする。

(3) オープンデータ官民ラウンドテーブル

- ・募集テーマを定める。（令和3年度は「環境・インフラ・防災」）
- ・市民団体等、データに関する専門知識がない方でもデータ公開を要望しやすいよう、応募様式の簡素化等見直しを行う。
- ・堅い雰囲気とならないよう、データ公開要望者と担当課が向かい合う座席配置などを見直す。
- ・オープンデータ官民ラウンドテーブルの基本的な流れは以下のとおり
 - ①データ公開希望者のプレゼン
公開を希望するデータの概要や、データの活用方法などについて説明
 - ②データ保有課からの回答
データ公開の可否、公開不可の場合はその理由などについて説明
 - ③質疑応答・意見交換

(4) スケジュール (予定)

- 10月 市民団体等向けデータ活用講座の開催
- 11月 データ公開要望募集
- 11～12月 データ公開の可否の検討
- 12月 オープンデータ官民ラウンドテーブルの開催
- 1月～ データ公開に向けた準備 → 順次公開

4 情報発信等事業

シビックテックポータルサイトを運用し、当協議会の事業や募集について積極的にPRするとともに、当協議会 facebook グループを運用し、委員間の情報共有及び意見交換を実施する。

(1) 令和4年度の方向性

- ・引き続きポータルサイト及び facebook グループの運営を行う。
- ・ポータルサイトについて、掲載情報の充実を図る。

(2) ポータルサイト

- ・引き続き、当協議会の事業や募集について積極的にPRする

(3) facebook グループ

- ・引き続き、事業の進捗にあわせて委員へ情報提供を行う。

(4) スケジュール（予定）

- 通年 ポータルサイト及びfacebookグループの運営
- 6～12月 掲載情報の充実に係る検討
- 1～3月 令和4年度事業結果の掲載、掲載情報の充実

令和4年度予算(案)

【収入】

(単位:千円)

項目	当年度 予算額	前年度 予算額	増減 (対前年)	備考
1 受託事業収入(委託料)	2,500	2,500	0	金沢市委託料
合計	2,500	2,500	0	

【支出】

(単位:千円)

項目	当年度 予算額	前年度 予算額	増減 (対前年)	備考
1 事業費	2,150	2,150	0	
①地域課題解決マッチング事業	684	795	△ 111	
②シビックテック塾開催事業	670	670	0	
③オープンデータ官民ラウンドテーブル開催事業	397	162	235	データ活用講座の開催
④情報発信等事業	399	523	△ 124	
2 運営費	350	350	0	
合計	2,500	2,500	0	

令和4年度第1回 金沢シビックテック推進協議会 会議概要

日時 : 令和4年6月29日(水) 18:30~20:00

場所 : 金沢市役所第一本庁舎 7階 第1委員会室

出席者: 小俣 博司 オープン川崎 代表
中田 明秀 金沢市PTA協議会 副会長
濱田 尚則 一般社団法人石川県情報システム工業会 副会長
福島 健一郎 一般社団法人コード・フォー・カナザワ代表理事
松井 くにお 金沢工業大学工学部情報工学科 教授
眞鍋 知子 金沢大学 融合研究域 融合科学系 教授
矢後 智子 NPO法人ネットワークアシストたかおか 副理事長
山口 いづみ NPO法人あかりプロジェクト 代表理事
松本 明 金沢市会計課長

(五十音順)

事務局 松田市民局長、木谷市民協働推進課長、山田市民協働推進課長補佐、川本係長、神田主査、森田主事

1. 議案

- 議案第1号 令和3年度事業報告について
- 議案第2号 令和3年度決算(案)について
- 議案第3号 令和4年度事業計画(案)について
- 議案第4号 令和4年度予算(案)について

2. 議案審議

議案第1号から第4号について承認した。

3. 委員意見等

令和3年度事業報告について（議案第1号及び議案第2号）

【委員】

地域課題解決マッチング事業について、最初のアイデア募集からアプリの完成まで半年以上かかっており、期間的に長いと感じる。
アプリ開発については、いわゆるアジャイル的に作成と意見フィードバックのサイクルを早く回していけば、よりよいものができるのではないかと。

【事務局】

令和3年度の地域課題解決マッチング事業では、課題募集、解決アイデア募集、作り手募集と3段階を経ており、事業期間が長くなった。
令和4年度は、課題募集と作り手募集の2段階とし、解決アイデアについてはマッチングしたチーム内で検討するスキームにしたいと考えている。
アジャイル的な考え方についても、事業に反映できないか検討したい。

【委員】

コロナ禍で、人が集まるということが難しかったのではないかと思うが、苦労した点や工夫した点などはあるか。

【事務局】

まず、シビックテック塾をオンラインで開催したことが工夫した点である。

【委員】

私もオンラインでプログラミング教室を開催しているが、対面であれば横で声をかけて困っている点などを聞き出すことが可能だが、オンラインではそれが難しい。

シビックテック塾もそのあたり苦労したのではないかと。

【事務局】

シビックテック塾では、疑問点等がある場合は、Zoomのブレイクアウトルーム機能を活用し、講師が受講者を一対一でサポートする体制とした。
このブレイクアウトルーム機能がなく、講師の話を一方的に聞いているだけであれば、受講者の理解も難しかったのではないかと。

【委員】

地域課題解決マッチング事業において、応募されたもののうち、選定されなかったものの理由は、内容的なものなのか、技術的なものなのか。
また、その理由については応募者にフィードバックされたのか。

【事務局】

地域課題はできるだけ幅広く選定したが、市が課題として公開することに馴染まないと考えるものについては選定しなかった。例えば、町会の自治や、企業の経営戦略に関するようなものである。

解決アイデアについては、内容のほか、マッチングイベントの会場や時間、開発支援金の予算面などを勘案し、5件を選定した。

いずれも、選定の結果については応募者へお伝えしたが、理由まではお伝えしていない。

【委員】

オープンデータ化したものは、市のサイト等で公開し、誰でも閲覧可能となるのか。

【事務局】

そのとおり、どなたでも自由に閲覧・ダウンロードし、ご利用頂ける。

【委員】

地域課題解決マッチング事業で開発されたアプリの帰属等はどうなるのか。

また、地域課題の応募数が非常に多かったが、どのような周知を行ったのか。

【事務局】

開発されたアプリについては、あくまで著作権等は開発者に帰属し、運用についても開発者側で行うようお願いしている。アプリは原則オープンソースとすることとしていることから、様々な方の手により進化していくような方向も望ましいと考えている。

また、周知については、ホームページのほか、市公式 SNS も活用しつつ、デジタルに馴染みがない市民や市民団体等を対象に、チラシを印刷し、配布を行った。

【委員】

応募された解決アイデアが、アプリケーションとなって広く利用されているということは、素晴らしいことであると感じる。

令和4年度事業計画について（議案第3号及び議案第4号）

【委員】

作り手については、大学生も応募可能か。

大学生は授業等で様々なアプリ開発に取り組んでいる。

ただし、課題を見つけるのがあまり得意ではないので、市民の皆さんに課題を提供していただき、それを解決するアプリを学生が開発するといった枠組みが構築できるとよいのではないかと考えている。

【事務局】

作り手には大学生も応募可能である。

以前実施していたアプリコンテストでは、学生の応募者及び受賞者が多く、能力的に非常に高いと考えている。学生も貴重な作り手候補として期待しており、ぜひ応募に向けたご協力をお願いしたい。

【委員】

オープンデータの取り組みについて、金沢市は他市と比較してかなり進んでいると考えているが、ただデータを提供しただけでは利用は難しい。

活用事例も示すことで、より利用が促進されるのではないかと。

【事務局】

そのとおりであり、市としても活用事例を積極的に公開していきたいと考えている。

オープンデータポータルサイトにも情報提供フォームを設置し、活用事例を寄せていただくようお願いしているところだが、オープンデータは申請等不要で利用可能という面もあることから、市で把握していない活用事例は多くあるのではないかと考えている。

【委員】

地域課題解決マッチング事業やオープンデータ官民ラウンドテーブルでは、市民や市民団体等から課題やデータ公開要望を募集するが、スケジュール等に可能ならば、今年度開催予定の「まちづくり HUB Project in 金沢」において、市民団体等から課題やデータ公開要望を出してもらおうようなワークショップなどを開催してはどうか。

【事務局】

オープンデータ官民ラウンドテーブルについてはスケジュール的に問題なさそうなので、実施について検討したい。

【委員】

私もシビックテックが市民団体等にもっと広まるとよいと考えているので、そういった場が活かせるとよい。

【委員】

シビックテックについて知りえるのが、スマホ等デジタル機器が扱える方に限定されているのではないかと。市民等から課題を募集する際に、基本のインターフェースがデジタルというのは、本来課題を応募してほしい方にマッチしないのではないかと。

シビックテックについて情報発信を行う媒体が、デジタルだけというのは検討の余地があるのではないかと。

【事務局】

そのとおりであり、シビックテック事業が昨年度市民協働推進課へ移管された際に、市民や市民団体等に方々に知っていただくため、募集についてチラシを大量に印刷し、配布させていただいたところである。

その他にも実施できないことがないか、アナログでの周知方法も含め、検討したい。

【委員】

地域課題解決マッチング事業における開発支援金は1件あたり10万円だが、場合によっては費用が10万円を超えるケースも出てくると思う。その場合はどうするのか。

【事務局】

当該事業においては、開発支援金を開発等に関する対価ではなく、支援と考えていることから、一律10万円としているところである。

費用が10万円を超えた場合にどうするかという課題はあり、例えば寄付など何らかの手段で工面する方法や、価値が大きいものであれば市等からの委託事業とする方法なども考えられるが、そのあたりも今後の課題として検討していきたい。

【委員】

地域課題解決マッチング事業において、県が所管している施設等に係る課題は対象外か。

例えば、県が所管する地下道に関する課題などである。

【事務局】

基本的に金沢市内の課題であれば対象となると考えているが、金沢市以外の主体が所管しているものに関する課題については、事前に話を通しておくことが望ましいと考えている。

金沢市が間に入って調整することで、課題解決がスムーズになる可能性もある。

【委員】

作り手のモチベーションという点について、最近では、事業として成り立ちそうなものについては起業支援につなげていくという事例があるが、どうか。また、ポータルサイトがあるので、褒めるという意味で、開発に携わった方々を掲載して紹介するなどしてはどうか。

【事務局】

起業支援につなげていくというアイデアについて、どのような対応が可能か検討したい。

また、ポータルサイトへの情報掲載についても、これまでの成果の周知も必要であると考えていたことから、トータルでどのように情報発信が可能か、検討したい。

【委員】

シビックテックにおけるモチベーションは非常に重要であり、どうすればシビックテックが社会に広がるかということ、関係者は試行錯誤しているところである。

例えばエンジニアにとっては、アプリ開発費として見た場合とても 10 万円では足りないが、お金をもらうということ以外の面でシビックテックに取り組んでいる方が大勢おり、先ほどのご意見のように、起業支援や「褒める」ということがモチベーションにつながる可能性がある。